

頸部リンパ節の病期分類

原発不明の頭頸部癌 《頸部リンパ節》

- 組織学的に 扁平上皮癌の転移が
頸部リンパ節で確認されたが、
原発の病巣が確認できない場合に適用
- EBV および HPV/p16の
ウィルス感染の有無で 原発巣を推定
 - EBV陽性が考えられる場合 《上咽頭》
 - HPV陽性 あるいは p16陽性 《p16陽性 中咽頭》
 - いずれも不明(未検査を含む) 《頸部リンパ節》

T分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

- いずれの場合も、原発巣は不明であるため、
 - EBV陽性
T0 原発病巣を認めない
 - HPV/p16陽性
T0 原発病巣を認めない
 - EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)
T0 原発病巣を認めない

pT分類は存在しない

cN分類(UICC 第8版) 《頸部リンパ節》

- EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

cN因子

N1 節外進展のない、単発で 3cm以下

N2a 節外進展のない、単発で

3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 臨床的に節外への進展を伴うリンパ節転移

「臨床的な節外進展」は、皮膚あるいは神経浸潤所見、または深部での筋/隣接組織への固定/結合を伴う軟部組織浸潤所見による

cN分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発/多発
N1		なし	3cm以下	—	単発
N2	N2a	なし	$3\text{ cm} < \leq 6\text{ cm}$	—	単発
	N2b	なし	$\leq 6\text{ cm}$	同側	多発
	N2c	なし	$\leq 6\text{ cm}$	両側or対側	—
N3	N3a	なし	$6\text{ cm} <$	—	—
	N3b	あり	—	—	—

pN分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

- EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

pN因子

pN1 節外進展のない、単発で 3cm以下

pN2a 節外進展のない、単発で

3cmを越えるが6cm以下のリンパ節転移

または 節外進展を伴う、単発で 3cm以下

N2b 節外進展のない、複数、同側で 6cm以下

N2c 節外進展のない、対側/両側で 6cm以下

N3a 節外進展のない、6cmを越えるリンパ節転移

N3b 節外進展を伴う、単一、同側で 3cmを越えるもの、

または 節外進展を伴う、複数、同側のリンパ節転移、

または 節外進展を伴う、対側/両側へのリンパ節転移、

pN分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

N因子		節外進展	最大径	側性	単発・多発	
N2	N1	なし	3cm以下	同側	単発	
	N2a	なし	3cm < ≤ 3cm	同側	単発	
		あり	3cm以下	同側	単発	
	N2b	なし	≤ 6cm	同側	多発	
	N2c	なし	≤ 6cm	両側or対側	—	
	N3	N3a	なし	6cm <	—	—
		N3b	あり	3cm <	同側	単発
あり			—	同側	多発	
あり	—		両側or対側	—		

ステージ(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	III	IVA	IVB
M1	IVC	IVC	IVC

進展度(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■ EBV, HPV/p16陰性または不明(検査せずを含む)

● T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

N分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》

- HPV/p16陽性の場合

cN因子

cN0 領域リンパ節転移なし

cN1 同側(複数を含む)で 全て最大径6cm以下

cN2 対側/両側で 全て最大径6cm以下

cN3 6cmを越えるリンパ節転移

pN因子

pN0 領域リンパ節転移なし

pN1 1~4個のリンパ節転移

pN2 5個以上のリンパ節転移

《中咽頭》 p16陽性のN分類と同じ

ステージ(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■HPV/p16陽性の場合

cステージ

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	I	II	III
cM1	IV	IV	IV

pステージ

	pN1	pN2
pT 該当せず	I	II
pM1	IV	IV

進展度(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■HPV/p16陽性の場合

c進展度

M1は「遠隔転移あり」の場合

	cN1	cN2	cN3
cT0	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
cM1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

pステージ

	pN1	pN2
pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
pM1	遠隔転移	遠隔転移

N分類(UICC第8版)《頸部リンパ節》



● EBV陽性の場合

N1 輪状軟骨下縁より上方の**一側** 頸部リンパ節転移
(最大径 $\leq 6\text{cm}$)

または **一側/両側** 咽頭後リンパ節転移(最大径 $\leq 6\text{cm}$)

N2 輪状軟骨下縁より上方の**両側** 頸部リンパ節転移
(最大径 $\leq 6\text{cm}$)

N3 最大径が**6cm**を超える頸部リンパ節転移

または **輪状軟骨下縁より下方**のリンパ節への転移

《上咽頭》の**N**分類と同じ (cNとpNは同じ分類)

ステージ(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■EBV陽性の場合

●T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	II	III	IVA
M1	IVB	IVB	IVB

進展度(UICC第8版)《頸部リンパ節》

■EBV陽性の場合

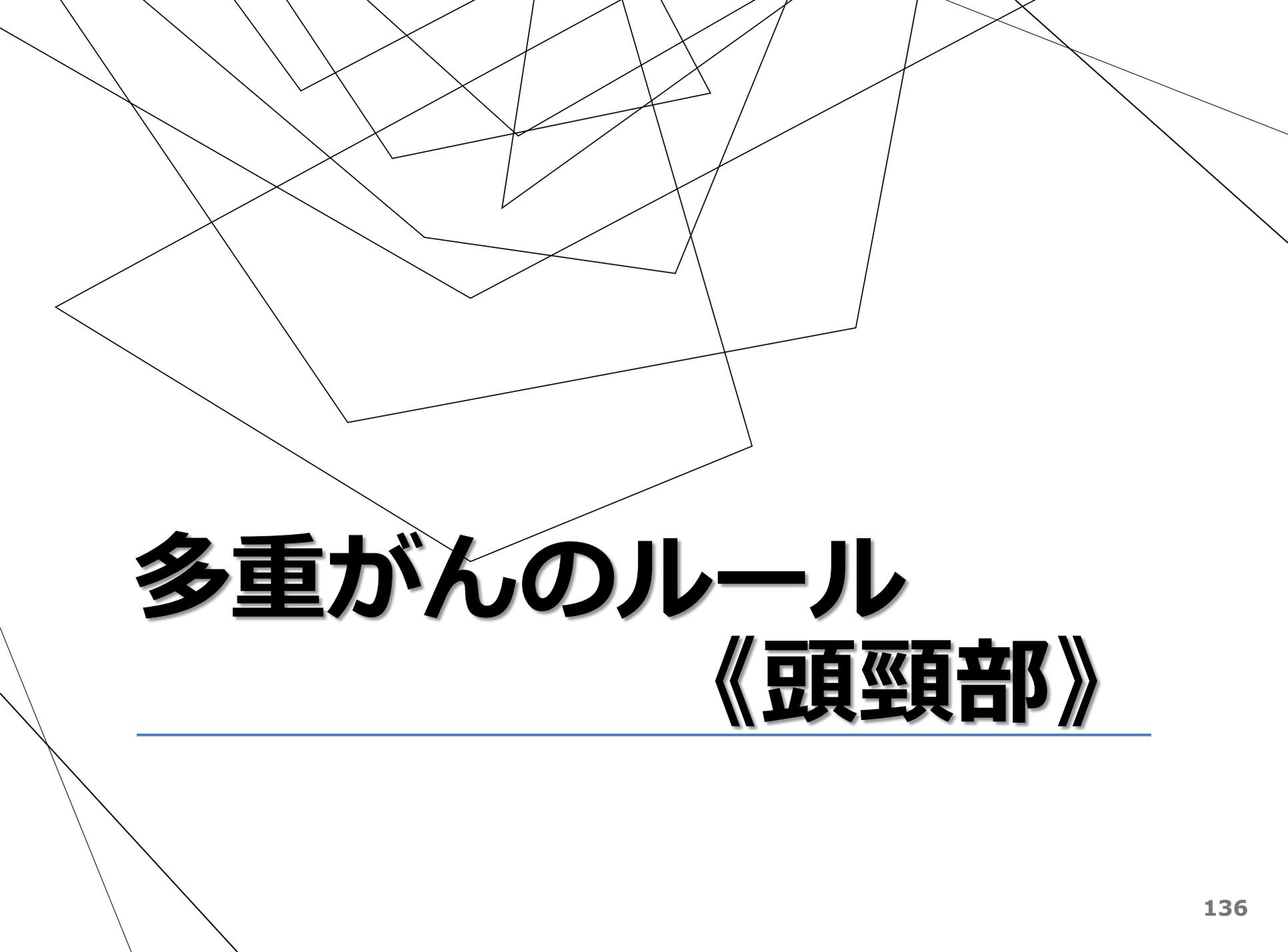
●T因子とM因子は、2つの組み合わせのみ

■ T0、M0

■ T0、M1

M1は「遠隔転移あり」の場合

	N1	N2	N3
cT0 / pT 該当せず	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移	領域リンパ節 転移
M1	遠隔転移	遠隔転移	遠隔転移

The background features a complex pattern of thin, black, overlapping lines that form various geometric shapes, including triangles and polygons, creating a sense of depth and movement.

多重がんのルール 《頭頸部》

多重がんルール 《頭頸部》

● 該当部位:

C000-148、C300-339、C410-C411、C442

■ 対象外

悪性リンパ腫・白血病
カポジ肉腫

M9590-M9993
M9140

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
不明	M1	単一腫瘍か複数腫瘍かが不明	⇒ はい	単発
		● 全ての情報を使用しても不明の場合に適用する。		
		↓いいえ		
単一	M2	単一腫瘍である	⇒ はい	単発
		● 単一腫瘍は常に単発として扱う。 ● 隣接部位/亜部位にまたがる場合を含む。 ● 上皮内癌と浸潤癌の成分を有する場合を含む ● 複数の組織型を持つものを含む。		
		↓いいえ		

多重がんルール 《頭頸部》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M3	非連続な複数の腫瘍が、 以下のいずれかの組合せの部位にある ・上唇(C000,C003)と下唇(C001, C004) ・上顎歯肉(C030)と下顎歯肉(C031) ・鼻腔(C300)と中耳(C301)	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 本ルールは、複数腫瘍の時のみ適用する。 ● 複数腫瘍発生時期の間隔は問わない。 ● 組織型は問わない。 ● これらの部位はICD-O局在コード4桁目(CxxX)が異なる組合せだが、上記の部位でのみ適用すること 		
		↓いいえ		
複数	M4	非連続な複数の腫瘍のICD-O局在コードが、 2, 3桁目(CXXx)のうち1つ以上異なる	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 本ルールは、複数腫瘍の時のみ適用する。 ● 複数腫瘍発生時期の間隔は問わない。 ● 組織型は問わない。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《頭頸部》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M5	非連続な複数の腫瘍が、側性を持つ部位の左右それぞれにある	⇒はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 本ルールは非連続な腫瘍にのみ適用する。 ※ 側性については、項目番号310「側性のある 臓器」を確認のこと。 		
		↓いいえ		
複数	M6	1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断後、 満5年の間 、臨床的に再発を認めず (clinically disease-free)、その後 (5年を超えて) 、新たな腫瘍が発生した	⇒はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 臨床的に再発を認めない” (clinically disease-free)とは、以下を含む検査にて、経過観察中に再発所見を認めない状態を指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ CT・MRI等の画像検査 または 腫瘍マーカー または 内視鏡検査 ● 1つ目の腫瘍あるいは最後の再発腫瘍の診断日から5年以内に再発した場合、次の腫瘍の診断までの間隔はリセットされ、再発腫瘍が診断された時点から計算。 ● 再発の記載がない、もしくは不明な場合、腫瘍の診断日が当該間隔の基準日とする。 ● 医師は、対象患者は過去に頭頸部腫瘍に罹患したという意味で、後の腫瘍に対し「再発」と記載することがあるが、医師の記載を採用せず、本ルールに従うこと。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《頭頸部》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M7	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」中の右列において、互いに異なる亜型/変異型である</p> <p>● 腫瘍の組織型は、互いに同じNOSの組織型の亜型/変異型でも、異なる NOSの組織型の亜型/変異型でも、本ルールを適用し、多重と登録する。</p> <p>・ Alveolar rhabdomyosarcoma と Embryonal rhabdomyosarcoma は、どちらも Rhabdomyosarcoma 8900/3 の亜型だが、両者の組織型は異なるため、多重と登録する。 ・ Colloid-type adenocarcinoma は Adenocarcinoma NOS 8140 の亜型であり、Sarcomatoid squamous cell carcinoma は Squamous cell carcinoma 8070 の亜型である。 これらの組織型は異なるため、多重と登録する。</p>	⇒ はい	多重
		↓いいえ		
複数	M8	<p>同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が、「同義語と定義の表」において異なる太枠に属している</p> <p>● 腫瘍の組織型が互いに異なる太枠に属する場合、それらは明確に異なる組織型である</p>	⇒ はい	多重
		↓いいえ		
複数	M9	<p>浸潤癌の診断後に上皮内癌が診断された（この場合、浸潤癌として登録する）</p> <p>● 腫瘍はいずれかのNOSとそのNOSの亜型/変異型であってもよい。 ● 一度、浸潤癌を登録しているので、上皮内癌は再発として扱う。</p>	⇒ はい	単発
		↓いいえ		

多重がんルール 《頭頸部》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M10	上皮内癌の診断から60日以内に浸潤癌が診断された (この場合、浸潤癌として登録する)	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 上皮内癌と浸潤癌が同時に診断された場合を含む。 ● これらの腫瘍はいずれかのNOSとその亜型/変異型の組み合わせでも適用可。 ● これらは、同じ腫瘍の多発病変と考え、以下のように登録する。 <ul style="list-style-type: none"> ・診断日は、最も早い診断日である上皮内癌の診断日を登録。 ・局在、組織型、病期、進展度は、より進展している浸潤癌の情報を優先して登録。 (病期分類は上皮内癌の診断日時点で採用していた分類を用いる) ● 医師は、両腫瘍に対して、最適な治療法の選択や疫学研究上の理由から、病期分類や多重との判定を行うことがある。その場合でも本ルールを適用する。 		
		↓いいえ		
複数	M11	上皮内癌診断後、60日を越えた間隔で浸潤癌が診断された	⇒ はい	多重
		<ul style="list-style-type: none"> ● 上皮内癌と浸潤癌を登録すること。 ● これらの腫瘍はいずれかのNOSとその亜型/変異型の組み合わせでも適用可。 ● 浸潤癌に対して、臨床医が”再発”や”増悪”と表現していても、本ルールに従うこと。 ● 本ルールは、腫瘍再発に関する疫学研究結果に基づき設定され、医学的専門家によって承認されたものである。 		
		↓いいえ		

多重がんルール 《頭頸部》

腫瘍数	ルール	項目内容		決定
複数	M12	同時性・異時性発生を問わず、互いに非連続である複数の腫瘍の組織型が「同義語と定義の表」において、同じ太枠に属している	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 「同じ太枠」とは、以下のいずれかを指す <ul style="list-style-type: none"> ・ 全ての腫瘍が同じ組織型(4桁の同じICD形態コード) ・ 1つの腫瘍の組織型が表の左列に該当し、他の腫瘍の組織型がその同義語(中列)に該当 ・ 1つの腫瘍の組織型がいずれかのNOS(左列あるいは中列)に該当し、他の腫瘍がそのNOSの亜型/変異型(同じ太枠内の右列)に該当 		
		↓いいえ		
複数	M13	上記のいずれも当てはまらない	⇒ はい	単発
		<ul style="list-style-type: none"> ● 上位のルールがすべて適用できない場合のみ、適用する 		

多重がんルール別表 《舌・口腔》

対象部位 **C020-029**舌(舌根を除く)、**C030-039**歯肉、
C040-049口腔底、**C050-059**口蓋、**C060-061**他の口腔部位

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
9140	カポジ肉腫	Kaposi disease	
8430	粘表皮癌	粘表皮腫瘍	
8825	筋線維芽肉腫	筋線維肉腫	
8720	口腔粘膜原発悪性黒色腫		
8070	扁平上皮癌 (SCC)	類表皮癌 扁平上皮癌、NOS Squamous ca. SCC	8075 棘融解性扁平上皮癌 8083 基底細胞様扁平上皮癌 8560 腺扁平上皮癌 8051 Carcinoma cuniculatum 8051 疣状扁平上皮癌 8082 リンパ上皮癌 8052 乳頭状扁平上皮癌

多重がんルール別表 《鼻腔・副鼻腔》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8140	腺癌	腺癌、非腸型 低悪性度腺癌 腎細胞様癌 漿粘液性腺癌 TAC 終末管状腺癌 管状乳頭状低悪性度腺癌	8144 腺癌、腸型(ITAC) 8144 腺癌、Colloid-Type 8144 腺癌、Colonic-Type 8480 腺癌、Enteric-type
<p>・鼻腔・副鼻腔の腸型腺癌は腸管原発の腺癌に組織学的には類似している</p>			
8082	リンパ上皮癌	LEC リンパ上皮腫様癌	
9540/3	悪性末梢神経鞘性腫瘍	悪性神経鞘腫 悪性シュワン腫 MPNST 神経線維肉腫	
8430	粘表皮癌	粘表皮癌、唾液腺型	
8720	粘膜原発悪性黒色腫		
8982	筋上皮性癌	筋上皮腫、悪性	

多重がんルール別表 《鼻腔・副鼻腔》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8072	非角化型扁平上皮癌	円柱細胞癌 NKSCC シュナイダー癌 移行上皮癌	
8023*	NUT癌	小児・AYA期の NUT変異を伴うmidline ca. NUT midline ca.	
9522/3	嗅神経神経芽腫	鼻腔神経芽細胞腫 鼻腔神経細胞腫 嗅板腫瘍 ONB	
9364	原始神経外胚葉腫瘍	成人神経芽腫 Ewing肉腫 末梢性神経芽腫 末梢性神経外胚葉腫瘍 末梢性神経上皮腫	
8070	扁平上皮癌	Squamous ca. Epidermoid ca. SCC Squamous cell ca., NOS	8071 角化型～ 8074 肉腫様～ / 紡錘細胞～(SC-SCC)

多重がんルール別表《鼻腔・副鼻腔》

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8800/3	肉腫		9120/3 血管肉腫 9045/3 二表現型鼻副鼻腔肉腫(BSNS) /神経・筋系分化を伴う 低悪性度鼻副鼻腔肉腫 9133/3 類上皮血管内皮腫 8810/3 線維肉腫/成人型線維肉腫 8890/3 平滑筋肉腫 9130/3 悪性血管内皮腫 8900/3 横紋筋肉腫 8920/3 胞巣状横紋筋肉腫 8910/3 胎児型横紋筋肉腫 8901/3 多形横紋筋肉腫、成人型 8912/3 紡錘形細胞横紋筋肉腫 9040/3 滑膜肉腫/滑膜細胞肉腫 8802/3 未分化多形肉腫 / 悪性悪性線維性組織球腫
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #e0f0e0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・横紋筋肉腫 8900 は、 ・胞巣状横紋筋肉腫 ・胎児性横紋筋肉腫 ・多形横紋筋肉腫 ・紡錘形細胞横紋筋肉腫 の亜型を含むNOSの形態である </div>		
8020	鼻副鼻腔未分化癌	鼻副鼻腔癌、未分化 SNUC	
9081	奇形癌肉腫	悪性奇形腫 奇形癌 Teratoid carcinosarcoma	

多重がんルール別表 《上咽頭》

対象部位 **C110-119**上咽頭

《左列》 特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8200	腺様嚢胞癌		
9370	脊索腫		
8260	上咽頭乳頭状腺癌	甲状腺様上咽頭乳頭状腺癌	
8070	扁平上皮癌、NOS	リンパ上皮癌 未分化癌 リンパ球浸潤を伴う未分化癌	8083 基底細胞様扁平上皮癌 8071 角化型扁平上皮癌 8072 非角化型扁平上皮癌

多重がんルール別表《中咽頭》

対象部位 **C100-109**中咽頭、**C019**舌根部、**C090-099**扁桃、**C111**咽頭扁桃

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8200	腺様嚢胞癌		
8525	多形腺癌	篩状腺癌 多形低悪性度腺癌 終末導管癌	
8070	扁平上皮癌 (SCC)	類表皮癌 扁平上皮癌、NOS Squamous ca. SCC	8071 角化型扁平上皮癌 8072 非角化型扁平上皮癌 8086 扁平上皮癌、HPV陰性 8085 扁平上皮癌、HPV陽性

多重がんルール別表《下咽頭・喉頭》

対象部位 **C129** 梨状陥凹、**C130-139** 下咽頭、
C320-323, C328-329 喉頭、**C339** 気管

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8200	腺様嚢胞癌	ACC	
9220	軟骨肉腫	軟骨肉腫、Grade2/3 軟骨肉腫、NOS	
8850	脂肪肉腫	異型脂肪腫様腫瘍 高分化型脂肪肉腫	
8070	扁平上皮癌 (SCC)	類表皮癌 扁平上皮癌、NOS Squamous ca. SCC	8560 腺扁平上皮癌(ASC) 8083 基底細胞様扁平上皮癌(BSCC) 8082 リンパ上皮癌(LEC) / リンパ上皮腫様癌 8072 非角化型扁平上皮癌 8052 乳頭状扁平上皮癌(PSCC) 8074 紡錘形細胞扁平上皮癌(SC-SCC) 8051 疣状扁平上皮癌(VC)
8240	高分化神経内分泌癌	カルチノイド 神経内分泌癌、Grade1	8013 大細胞神経内分泌癌 / LCNEC 8249 神経内分泌腫瘍、Grade2 / 中分化型神経内分泌癌 / 異型カルチノイド 8041 小細胞神経内分泌癌 / 小細胞癌 / SmCC

多重がんルール別表

《大唾液腺》

対象部位 **C079**耳下腺、**C080-089**大唾液腺

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8550	腺房細胞癌 Acinic cell ca.	ACC Acinar cell ca. 腺房細胞腺癌	
8140	腺癌	腺癌、NOS 分類されない腺癌 唾液腺腺癌、NOS	8147 基底細胞腺癌 / 単形(非多形)腺腫由来基底細胞癌 / Malignant dermal analogue tumor 8941 多形腺腫由来癌 8310 明細胞癌(CCC)/ hyalinizing CCC 8201 篩状腺癌 8144 腸型腺癌 8012 大細胞癌、NOS / 大細胞未分化癌 8520 小葉癌 8470 粘液嚢胞腺癌 8430 粘表皮癌(MEC)/ 悪性粘表皮腫瘍 8450 乳頭状嚢胞腺癌 8525 多形腺癌(PAC) / 多形低悪性度腺癌 / 終末導管癌 8500 唾液管癌 / 導管癌 / 導管腺癌 / 高悪性度導管癌 8500/2 低悪性度篩状嚢胞腺癌 / 導管内癌 / 低悪性度導管内癌
8200	腺様嚢胞癌	ACC	

多重がんルール別表

《大唾液腺》

対象部位 **C079**耳下腺、**C080-089**大唾液腺

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8980	癌肉腫	癌肉腫、NOS 悪性混合腫瘍	
8440	嚢胞腺癌		
8562	上皮-筋上皮性癌	腺筋上皮腫	
8082	リンパ上皮癌 (LEC)	リンパ上皮腫様癌 悪性リンパ上皮病変 リンパ球浸潤を伴う未分化癌	
8982	筋上皮癌	悪性筋上皮腫	
8246	神経内分泌癌	神経内分泌癌、NOS	
8290	オンコサイト癌	悪性オンコサイトーマ オンコサイト性腺癌	
8410	脂腺癌	皮脂腺癌、NOS	
8502	分泌性癌	Mammary analog secretory ca.	

多重がんルール別表

《大唾液腺》

対象部位 **C079**耳下腺、**C080-089**大唾液腺

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8070	扁平上皮癌 (SCC)	類表皮癌 扁平上皮癌、NOS Squamous ca. SCC	

多重がんルール別表《頭蓋骨他》

対象部位 **C410**頭蓋骨/顔面骨およびその関節、**C411**下顎(骨)

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
9270/3	エナメル上皮癌、 原発性	AC エナメル上皮癌 脱分化型エナメル上皮癌 二次性エナメル上皮癌 原発性骨内癌、NOS 硬化性歯原性癌(SOC)	9310/3 エナメル上皮腫、 転移性(を伴う)
9341	明細胞歯原性腫瘍	CCOC	
9302	歯原性 ゴースト細胞腫瘍	Aggressive epithelial ghost cell odontogenic tumor Calcifying ghost cell odontogenic carcinoma Carcinoma arising in calcifying odontogenic cyst Malignant calcifying ghost cell odontogenic tumor Malignant calcifying odontogenic cyst Malignant epithelial odontogenic ghost cell tumor	

多重がんルール別表《頭蓋骨他》

対象部位 **C410**頭蓋骨/顔面骨およびその関節、**C411**下顎(骨)

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
9342/3	歯原性癌肉腫	悪性歯原性混合腫瘍	9310/3 悪性エナメル上皮腫 / 古典的エナメル上皮腫 9330/3 歯原性肉腫 / エナメル上皮線維肉腫
8800/3	肉腫		9220/3 軟骨肉腫、Grade2/3 9240/3 間葉性軟骨肉腫 9180/3 骨肉腫 9181/3 軟骨芽細胞性骨肉腫 9187/3 骨内高分化型骨肉腫 / 低悪性度中心性骨肉腫 9192/3 傍骨性骨肉腫 9193/3 骨膜性骨肉腫

- ・軟骨肉腫、Grade2/3の亜型/変異型として、
- ・間葉性軟骨肉腫 が存在する。
- ・骨肉腫の亜型/変異型として、
- ・軟骨芽細胞性骨肉腫
- ・骨内高分化型骨肉腫
/ 低悪性度中心性骨肉腫
- ・傍骨性骨肉腫
- ・骨膜性骨肉腫 が存在する。

多重がんルール別表《中耳・外耳他》

対象部位 **C301**中耳、**C442**外耳

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8420	耳垢腺癌	Ceruminal adenoca.	
8140	内リンパ嚢腫瘍	腺癌 Hefner 腫瘍 内リンパ嚢原発 低悪性度乳頭状腺癌	
8070	扁平上皮癌 (SCC)	類表皮癌 扁平上皮癌、NOS Squamous ca. SCC	

多重がんルール別表《中耳・外耳他》

対象部位 **C754**頸動脈小体、**C301**中耳、**C442**外耳の傍神経節腫

《左列》特異的/NOSの組織型		《中列》 左の同義語	《右列》 左/中列の亜型/変異型
コード	表現用語		
8690/3	頸動脈小体傍神経節腫	頸動脈小体腫瘍 ケモデクトーマ、頸動脈小体 非クロム親和性傍神経節腫、 頸動脈小体	
8690/3	喉頭傍神経節腫	ケモデクトーマ、喉頭 非クロム親和性傍神経節腫、 喉頭	
8690/3	中耳傍神経節腫	頸静脈グロムス腫瘍、中耳 鼓室小体 頸静脈鼓室ケモデクトーマ	
8690/3	迷走神経傍神経節腫	頸静脈グロムス腫瘍、迷走神経幹 ケモデクトーマ、迷走神経幹 非クロム親和性傍神経節腫、 迷走神経幹	